

教育広報

かけはし

第18号 平成7年3月15日発行
発行 千代田区教育委員会



「おもはこうしてほられました」を熱演（千代田小）

主
な
記
事

☆麴町小・幼の校・園歌が決定

☆千代田区実施計画まとまる
—平成7年度～平成9年度—

☆子どもの成長の軌跡

☆兵庫県南部地震への対応

☆「いじめ」の根絶と区教育機関

小学校の連合学芸会では、8校すべてが千代田区公会堂に集まり、競演しました。

民話劇、童話劇、生活劇に加えてロシア語劇、ミュージカルも含まれ多彩な内容でした。いずれも、正義観を貫いたり、友情を大切にすることを訴え、観客をうならせ大きな拍手を受けていました。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。



麴町小・幼の校・園歌が決定

麴町小学校・幼稚園では、「校歌・園歌、校章・園章制定委員会」を設置して検討を進めてきましたが、このたび、校歌と園歌が決定し、去る3月1日に制定を祝う会を開催しました。

麴町小学校 校歌

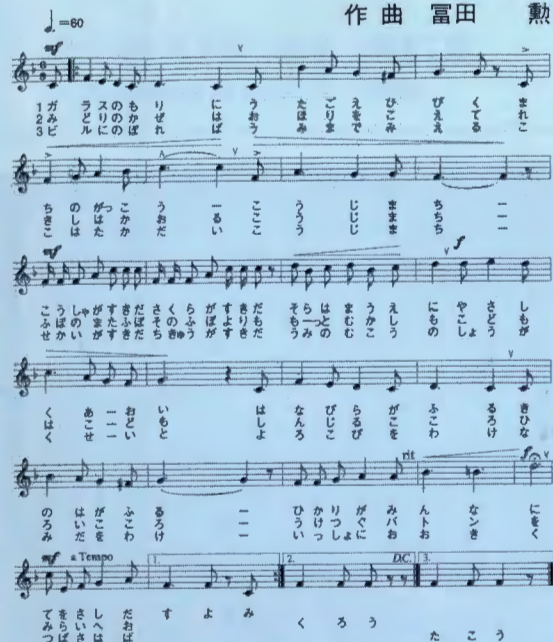
「ガラスの森に うたえのび
街の学校 麴町
校舎が好きた 桜が好きた
空は真上に やさしく青い
花びらが降る 木の葉が降る
光がみなに 手をさしたずみ

「みどりの風は お涙をこめて
歴史は香る 麴町
父母のまた父母 その父母よりも
もつとむかしも 子どもは子ども
（うた）のびのび ひろいひろ
うけつたハートを 未来へ送ろう

「三日月のぼれば 海まで見える
こころは高く 麴町
世界が好きた 地球が好きた
海のまじりの 小学生と
よつぎを分け なみだを分け
いついかに大きく つばきははたう

麴町小学校 校歌

作詞 阪田 寛夫
作曲 富田 勲



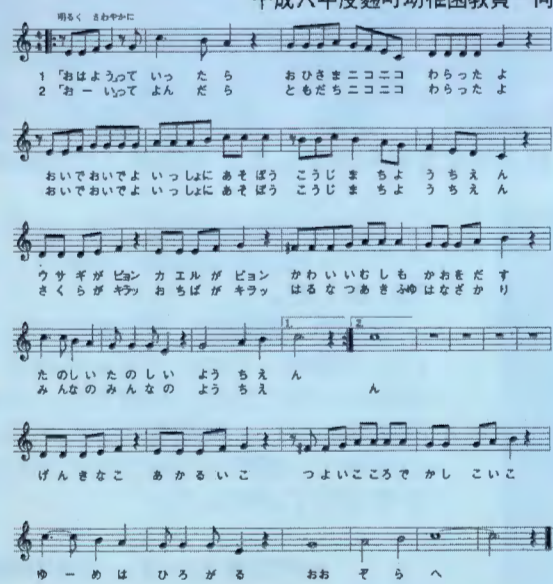
麴町幼稚園 園歌

「おはよう」っていつたり
お日さま「ニ」笑ったよ
おいで、おいで、一緒に遊ぼう
麴町幼稚園
ウサギがピョン カエルがピョン
可愛い虫も顔を出す
楽しい 楽しい 幼稚園

「おーい」って呼んだら
友達「ニ」笑ったよ
おいで、おいで、一緒に遊ぼう
麴町幼稚園
桜がキラッ 落ち葉がキラッ
はる なつ あき ふゆ 花盛り
みんなの みんなの 幼稚園
元気な子 明るい子
強い心で かしい子
夢は広がる 大空へ

麴町幼稚園 園歌

作詞・作曲
平成六年度麴町幼稚園教員一同



千代田区実施計画まとまる

(平成七年度～平成九年度)

〔実施計画とは〕

千代田区では、平成四年六月に二十一世紀初頭を展望した「新基本構想」を策定しました。そして、この構想の実現に向けて、同年十二月には施策体系や計画事業を明らかにした「新基本計画」(平成五年度～平成十四年度)を策定しました。

区では、平成三年十二月に発表した公共施設適正配置構想(公適配構想)の一部見直しを行うための「見直し素案」を昨年十一月に作成し、区民の皆さんをはじめとする関係者の方々のご意見をお聴きしているところです。

〔公適配構想との関係〕

実施計画は、公適配構想を具体的に実現していく計画という性格も有していますので、公適配関連施策のうち、今回の計画期間(平成七年度～平成九年度)に実施が予定されている施策については、「見直し素案」の内容に沿った計画となっています。しかしながら、見直しの内容が確定していない状況を踏まえ、今回策定した実施計画の推進にあたっては、今後の公適配構想見直しの方向性を見定めながら、施策の実現を図っていくこととなります。

では、実施計画の中の教育関連施策の主なものについて、「見直し素案」の内容にもふれながらご紹介します。

〔教育関連施策の概要〕

*中学校の適正規模化・適正配置

中学校の適正規模化・適正配置は平成八年四月からスタートすることとなりますが、(仮称)第一中学校については、新校舎の建設スケジュールの変更に伴い、平成九年四月からスタートすることとなります。

配置場所は、現在の麴町中学校の場所としますが、新校舎が建設される平成十一年十二月までの間は、現在の九段中学校を仮校舎として使用することとなります。

(仮称)第二中学校については、現在の一橋中学校を使用することとなります。

(仮称)第三中学校については、神田司町二丁目複合施設内に予定していた配置場所を、神田東松下町(旧千桜小学校跡地)に再配置し、新校舎が建設される平成十二年十二月までの間は、現在の練成中学校を仮校舎として使用することとなります。

*外神田三丁目複合施設の建設

昌平小学校・幼稚園、まちかど図書館、児童館からなる外神田三丁目複合施設(旧芳林小学校跡地)は、すでに昨年八月に着工し、平成八年八月竣工に向けて建設工事中です。

*神田司町二丁目複合施設の建設

千代田小学校・幼稚園、教育研究所、まちかど図書館からなる神田司町二丁目複合施設(旧神田小学校跡地)の建設が、平成七年十一月着工、平成九年十二月竣工予定となります。

*神田小川町三丁目複合施設の建設

生涯学習センター、芸術文化ホール、歴史民俗資料館、図書館(本館)からなる総合文化施設及び地域事務所(旧小川小学校跡地)の建設が、平成八年七月着工、平成十一年六月竣工予定となります。

また、総合文化施設や体育館などの管理運営や文化・スポーツ事業の運営を行うための「文化・スポーツ振興財団」の設立準備も進めます。



子どもの成長の軌跡

年度末が近づくにつれ、幼稚園や小・中学校では学習の成果を確かめる行事が続きます。子どもの貴重な体験の道筋をたどってみました。

幼稚園『ふれあい』

幼稚園では、ウサギやトリを飼い、草花を栽培して、幼児に季節や自然を体得させようという心がけています。また、最近、外国籍の幼児が入園したり、近隣の外国系の幼稚園と交

流する催しもあります。案ずるよりも生むが易く、子ども同士は身振り手振りで打ち解けていました。さらに、最近の少子化傾向の中で、みんなで遊ぶ時間を増やして、幼い時から社会性を育てるよう、ふれあいを大切にしています。



▲可愛いお客さまを招いて幼い国際交流
(富士見幼)



▲遊びをとおして、みんなでお話に興じるひととき
(和泉幼)



▲年頭の誓い「希望の春」をしたためる書き初め
(千代田小)



▲孺恋村でたくさん採れたジャガイモを前に
(番町小)



▲連合学芸会で「四つの色の歌」を歌い踊る
(お茶の水小)

小学校『体験する喜び』

小学校の自然体験交流教室では、秋に群馬県孺恋村に出かけた五年生が、春に植えたジャガイモが確かに実っていることを観察しました。掘ったイモを見て、子どもは「夏にどんな花が咲いたのですか」と地元の方に率直な疑問を投げかけていました。

音楽会や学芸会では、どの学校もチームワークの良さが印象に残りました。例えば、劇やミュージカルでは、「周りの人の気持ちを大切に」

中学校『知・徳・体』

中学校の英語学芸会と連合音楽会は、芸術の秋にふさわしい行事でした。

英語学芸会は、司会、挨拶などすべて英語だけしか使いませんが、勧善懲悪のストーリーが観客を最後までひきつけていました。

音楽会も混声三部合唱やブラスバンドの演奏で、息の合ったハーモニーに盛大な拍手が送られていました。毎日の学習においても、どの教科も生徒が学習に親しみやすいように教材を工夫しています。最近では、技術科などでコンピュータを導入した学習もあります。

また、授業参観の機会に保護者に生徒の学校生活を公開したり、校長・教頭先生が率先して個人面接をするなど、保護者の方々や生徒との対応・対話に努めてきました。

二月に行われた武道大会では、剣道・柔道の真剣な勝負を通して、子どもには礼節を重んじる良い経験になったと思います。

このように、中学校では知育、徳育、体育の調和を考えた教育を目指しています。



▲親も昔の中学生にもどって、熱心な授業参観
(九段中)



▲連合音楽会で声を合わせて「マイバード」を熱唱
(今川中)



▲これからの情報社会に備えるコンピュータ学習
(練成中)



▲寒さにも風邪にも負けない冬の登校
(昌平小)



▲武道大会で日本の礼節を学ぶ
(区立中学校5校)

という趣旨が強調されています。ここに至るまでの放課後の練習で培った子ども同士の連帯意識や先生との絆は、貴重な成果でしょう。

新年早々には書き初めの校内展がありました。「希望の春」など、児童の年頭の決意を表わす作品が教室や廊下に並んでいました。また、冬は風邪の季節ですが、養護の先生の指導でマスクやうがいでの励行を心がけて、寒さに負けずに登校しました。

このように、いろいろな体験を繰り返すことから、子どもは学習の喜びを感じるのでしょう。

最近「言葉」が気になります。美しい言葉、優しい言葉、悲しい言葉、カッコいい言葉、心を豊かにする言葉、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまう言葉を表現することができませんが、果たして私達は、言葉を大切にしているのでしょうか。

社会の変化の中で、大人も子供も忙しい日々を送っています。そのため、言葉は心や気持ちを伝えるよりも、情報の伝達を目的とした役割が大きくなっていくように思われます。もし、子供を取りまく環境を少しでも良い方向に変えていきたいと考えるならば、私達は子供達ともつと言葉を大切にして話し合い、家庭の中でしっかりと育てなければなりません。その子の人生を左右することになるかもしれない親の一言を大切にしたいものです。

少子時代の今日、「大事にかわいがること」と「過保護の甘やかし」の違いを認識し、将来のより良き社会人になるべき子供のために、改めて我が子の躰を考えてみてはいかがでしょうか。どんなにきびしく思わ



さて、私の場合、今までに多くの方々に出会い、たくさんの言葉をいただきました。その中でも、PTA活動で出会った先輩の言葉は、今も何かを考える時の大切な指針となっております。それは、「とにかく自分の考えを正しいと主張する時、自分

の考え方のみを是とし、それと異なる考え方を非と決めつけてしまうことは、いけないことではないのか。世の中には白と黒だけが存在するのではなく、赤、青、黄、ピンク、グレーなど、さまざまな色が存在し、美しいハーモニーを奏でているのでは」とのアドバイスでした。

確かにこう考えてみると、多様な考え方に對しても、これは何色の花なのかと楽しみながら考えることができます。美しい花はたくさんありますが、今ここに咲かせる花は、何の花がベストなのかを考えるのは、たいへん楽しく、意義深いことです。最後に、阪神大震災の報道を見るにつけ、被害の大きさに心を痛めております。そうした中で、ある被災者なされた方が「人間はどんなに苦しくても希望があれば生きられる」と話しておられたのが心に響きました。私達が生きていくために最も大切になければならない言葉ではないでしょうか。私も希望を持って頑張つてまいりたいと思います。

千代田区教育委員
そね ふみこ

随想
きょういく

「いじめ」の根絶と区の教育機関

子どもの「いじめ」が社会問題になっています。今こそ、「いじめ」の根絶を目指す必要があります。保護者と学校でどんな点に注意し、どう対応したらよいのか、また、子どもの教育を支える千代田区の教育機関の活動についてとりあげてみました。

■学校で留意していること

先生は、子どもが一日の学校生活を楽しく過ごせたかどうかを、教室の内外で見守っています。

▼友達から孤立している子どもはいないか ▼保健室によく行く子どもはいないか ▼笑顔を見せず暗い表情の子はいないか ▼衣服や持ち物にいたずらされている子どもはいないか ▼学校を欠席しがちな子どもはいないか ……

このような点から、子どものわずかな変化でも見逃さないように気を付けています。子どもが活動している近くに先生の姿があると思ってください。

子どもが友達とどんな生活をしているか、学校の先生は家庭とは違つた、集団生活の中での子どもを見えています。家庭と学校で連絡を密にしましょう。

■家庭で気を付けてほしいこと

子どもは自分がいじめられていることを、親にも先生にも隠しがちです。友達の前でも取り繕つて、本心を明かしません。だから、子ども本人の表情や行動の変化を素早く発見することが、大切になります。子どもは、どんなサインを出すのでしょうか。

▲登校時や帰宅時の表情がさえない ▲いたずらされた学用品やすり傷を親に隠しがちになる ▲金品をたびたび紛失したとか落としたと告げる ▲うつむいて曖昧な返事を繰り返す ▲学校で困っていることをさとりられないように振舞う ……

子どもは、いじめられていることをはつきりと周囲に宣言できずに、殻に閉じ込めて我慢し、苦しまぎれに控えめなサインを気付かれぬように出すものです。その目立たぬサ



インを的確にキャッチしなければなりません。毎日顔を合わせている親子でも、もう一度子どもの姿を見直してください。いじめの発見は、早ければ早いほど、子どもの心の傷も軽くなるのです。

■教育委員会のいじめ相談

教育委員会では、いじめ相談の専用電話を開設しています。

いじめで悩んでいる方や、いじめの実情を見聞されている方は、ぜひとも情報をお寄せください。教育関係者や心理の専門家が相談を受け、

兵庫県南部地震への対応

兵庫県南部地震により被災された方々に対し謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

生活の場、学びの場を奪われ、親類などを頼って他の学校に一時転校した児童・生徒は、二万人を超えたといわれています。

千代田区でも昌平小学校・九段小学校で転入生を受け入れ、迎えた側の子どもたちも、思いやりと励ましの気持ちをもつて温かい交友関係を築きました。

教育委員会ではこの他にも、神戸市に机・イスを提供するなどの支援活動を行っています。各学校においても、児童会、生徒会、PTAなどが、四百万円を超える義援金や励ましの手紙などを送りました。

また、被災時における公共施設、とりわけ学校の重要性を貴重な教訓として受けとめ、教育委員会と各学校が協力しながら、防災教育の充実、教育施設の安全点検と補修、学校防災計画の見直しなどに取り組んでいます。

必要に応じて学校とも連絡がとれるように待機しています。いじめられている子どもだけでなく、いじめられている子どもの立場も教育的に充分配慮しながら、子どもの人間関係全体を改善するように、指導・助言をおこなっています。

いじめの電話相談は

3 2 6 4 4 3 9 7



■教育相談にもお出かけ

子どものことで個人的に相談したい方のために、区では教育研究所に教育相談部を設置しています。ここ

では、「学校へ行きたくない」、「友達とうまく付き合えない」といった悩みを、学校とは違った立場で相談に応じています。

教育相談専門員や医学・心理学の専門家などが担当しており、昨年度の相談件数は、延べ八百六十件でした。

教育相談部の窓口案内

◎電話 3256-8140

◎住所 千代田区内神田

二―一―八



▲教育相談部のプレイルーム

区立総合体育館の五・六階にあって面接室のほかプレイルーム、学習室などを備えています。いじめのケ

ースも子どもの悩みのひとつとして、無料で相談に応じています。秘密は厳守いたしますので、事前に電話で予約の上、ぜひご利用ください。

■教育研究所の仕事

教育研究所の「調査研究部」は、ちよだパークサイドプラザの中に設置され、コンピュータ室・資料室などがあります。

ここでは、社会の変化に対応して心豊かでたくましく生きる人間を育てるための教育課題をとり上げ、調査研究、研修、情報収集等に取り組んでいます。

今年度は、教職員が所員とともにプロジェクトを組み、環境教育・コ



▲調査研究部のコンピュータ室

ンピュータ教育・性教育について、時代の流れや社会のニーズに合わせた指導資料等を検討し、作成しました。さらに、情報教育の普及に併せて、コンピュータ機器の理解、習熟を深める研修会を開き、夏休みに多くの先生が参加しました。

また、資料室には移動式の書架があつて、教育関係の資料が整理保存されています。今年度は、区内の幼稚園・小学校・中学校の研究物や他の教育機関などから寄贈された報告書や資料を分類・整理し、「教育資料目録第九集」にまとめました。

このように、子どもの教育は、学校を中心として、教育研究所も重要な役割を分担しています。



▲移動式書架がある資料室

編集後記

本号には、悲喜こもごもの記事を掲載する結果となりました。

校（園）歌の制定や学校行事の様子を伝える記事は、心はずむ気分になさせてくれますが、いじめや震災の記事には胸が痛みます。

親はもちろんのこと、子どもと接する地域の方々や教育にたずさる方々は、子どもの将来を願って、日頃から努力されていることでしょう。

その際に、この「かけはし」が少しでも役立つよう、毎号毎号、一つの記事、一つの文字を大切にして編集するよう努めています。

「かけはし」の足跡が、未来を築く子どもたちに贈る橋となり、将来に生かされたなら、この上ない幸せです。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお寄せください。お待ちしております。

教育広報「かけはし」第十八号
平成7年3月15日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
☎(3264)0151 内3114